

「平成29年度 第7回大月みらい協議会」 会 議 概 要

日 時 平成30年3月27日（火）午後7時から午後9時まで
場 所 大月短期大学 会議室
出席者 委員13名（8名欠席）
長田弘、小俣理美、小池幹彦、佐々木啓吉、佐藤茂幸、志村淳、志村賢二、
白川太、福嶋尚美、藤井真弓、三木範之、武者稚枝子、山口明秀
傍 聴 内藤大輔
【事務局】 石井企画財政課長、井上地域活性化担当リーダー、榎本、堀内

1. 志村議長あいさつ

皆さんこんばんは。私たちの任期は来年の1年間となりましたが、是非、今夜の会議につきましても、絞り込みをお願いしたいと思います。

また、本日は前回の会議でお諮りした傍聴人の内藤さんに来ていただいていますので、挨拶をいただきたいと思います。

【内藤氏】

皆さんこんばんは。中央大学経済学部の内藤と申します。初狩町に住んでいて、大学ではゼミにおいて、スポーツにおける地域の活性化について研究しており、将来は大月に戻って地域の活性化に取り組みたいという思いを強く持っており、是非、勉強させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

2. 議 題

(1) 平成29年度第6回会議概要について

- 平成29年度第6回会議概要の市ホームページへの公開について承認された。

(2) 「大月市ふるさと教育」実践案シートについて

- 前回会議で決定した、『大月みらい協議会が示す「ふるさと教育」の理念とビジョン』に基づき、具体的な取り組みに向けて、実践案シートの提出をお願いしたところ、6名の委員から7つの案が提出された。
- 提案内容について、提出者から説明があり、その後佐藤副議長が進行することとなった。

【佐藤副議長】

皆さんこんばんは。全部で7件の「実践シート」による提案がありました。これをどの

ように進めるのかということで、前回の再確認にもなりますが整理をさせていただきます。

お手元の第6回会議概要の3ページの部分ですが、このみらい協議会で「ふるさと教育」について話し合いを進めてきたところで、私たちみらい協議会が定義する「ふるさと教育とは」という部分を確認してきたところです。

「大月の未来づくり」に携わる、「大人」「子供」「大月のコミュニティ」の主体となる3者を「何とかしていかないとならない」ということでした。そして、「子供をどうにかしていくことが大事だ」という確認ができました。

この3者で大月の未来を作っていきます。それぞれのものが「ふるさと教育」になるということだったと思います。

では、具体的に何をするのかということですが、2つのことをしましょう。1つ目は「**“子供”の前で「夢を語る“大人”をつくる**」件で、大人もかっこよくという部分で、「インターンシップの件につながっていく」感じなのかと思います。

2つ目は「**“子供”が抱く「夢を応援する“大月コミュニティ”(=小さな拠点)をつくる**」件で、「子供が抱く夢を助ける仕組みがない、仕組みが弱いかもしれない」という問題意識から出てきたものであります。「夢塾」とか、「学童クラブ」などにつながっていくのかと考えられます。

この2つのことを、「実際どうやっていくのか」というのが新年度のテーマで、「具体的なものを決めましょう」ということであります。

それを踏まえて、7つの提案の発表がありました。そして、新年度進めていくのは、モデル事業というか、チャレンジ事業をしていく、「小さくてもいいので、何かしていきますよ」これを今回決めて、実現していきましようとする部分であり、進め方としての私の提案としては、7つの事業を整理すると、A案、B案、C案、D案、E案とまとめてみました。

【大月みらい協議会チャレンジ事業（案）】

A案 企業訪問・インターンシップ

B案 「夢塾」子どもの夢を育むサポーター

C案 学童＝小さな拠点

D案 情報発信 大月の仕事人

E案 カッコいい大人の“夢を語る”プレゼン大会～生涯学習推進大会

進め方ですが、実際に私たちが「これをできるのかどうか」ということです。

皆さんがそれぞれの仕事や活動を持つ中で、新年度度から、「実際に手足を動かしてやるのなら」又は「実際に手足を動かしてできるのなら」というものについて、いきなりの提案で恐縮ですが、選んで頂きたいと考えるところです。

3～4人集まったら、何かできそうだというものを、みらい協議会の中で3つぐらいを

決めて、実行委員会を作って来年から行動してみるように考えます。

当然、「ちょっと、難しい」と考える方がいれば、見送るような考え方もありなのかと考えています。実際に来年度には、プロジェクトの方向として企画を練り、協議をし、実施していくように考えています。

そして、実行委員会で企画をたてていただき企画ができれば、また、みらい協議会に披露して、意見をいただいた上で、実施をしてみる。実施内容は、「できることから」として、小さなことからやって、やったことの結果を、このみらい協議会に報告して、次の段階へ進めていくようなことを考えています。

こんな進め方をするとチャレンジ事業として「結果がでるのではないのか」と思うのですが、進め方としていかがでしょうか。

●その後、進め方や提案内容について、議論が行われた。

【志村議長】

皆さんいかがでしょうか。自分の興味のあるものに集まりながら、皆で話し合い、それを持ち寄りましょう。きっと、新たな発見もあるのではないかと思います。自分の思いを伝えることができるものをこの中から、話しをしながらすすめることはできないでしょうか。是非、進めたいと考えます。

【佐藤副議長】

時間が来ましたので、A案、B案、C案、D案、E案の中で、自分が出来そうなこと・やりたいことで手をあげていただいて、人数が集まったらそれでスタートさせていただきたいと思います。皆さん、うなづいていただいていますので、これでスタートさせてください。それでうまくいかなかったら、もう一度戻って、議論していきたいと思います。

今日欠席された方についても事務局で説明して、意見集約をお願いすることとします。

このみらい協議会は1回目でもお話ししましたが、このみらい協議会は市民と行政の協働が1つのチャレンジになるかも知れない類のことを言ったかと思っています。協働ということとなると、議論も「協働」のスタイルなのかと思いますが、でも、3年目は「協働」の「動」のところで実績を残していけたらと考えますので、チャレンジをしましょう。お願いします。これで、議事の2を終わらせていただきます。

●各委員が5つの案の内、どの案に参加するか、後日意向確認調査を行うこととなった。

(3) その他

●次回会議については、4月下旬頃を目途に、議長、副議長と日程調整して通知することとなりました。